



ごみ処理の課題と今後の方向性 (組成分析調査結果等から)

家庭系ごみの課題

普通ごみの中に、分別排出の対象である「資源ごみ」、「容器包装プラスチック」及び「古紙・衣類」が約25%と高い割合で含まれ、また、手つかず食品、食べ残しといったいわゆる「食品ロス」についても、いまだ、3.7万トンが廃棄

事業系ごみの課題

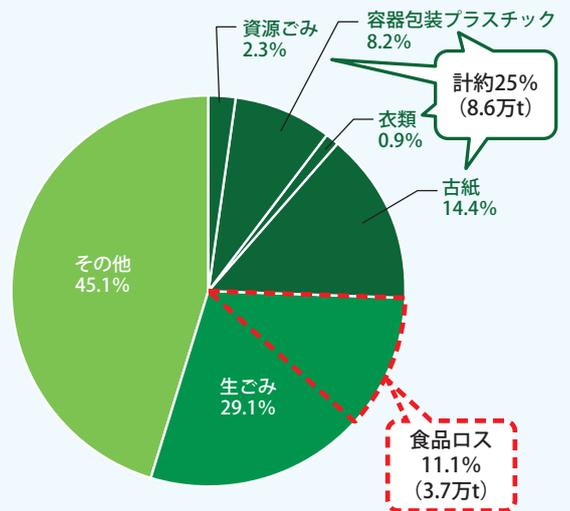
事業所から排出され、焼却工場に搬入されているごみの中には、「資源化可能な紙類」や廃プラスチック類をはじめとする「産業廃棄物」が、事業所全体で約14万トン含まれ、また、「食品ロス」についても約11万トンが廃棄

方向性

- 家庭系ごみ・事業系ごみいずれも本来焼却すべきでないごみが相当量含まれており、その対策が必要
- 食品ロス・プラスチックごみについては、新たに焦点(SDGsの視点)を当てた取組を推進
- 紙ごみ・産業廃棄物については、引き続き、分別排出の徹底・適正処理を推進

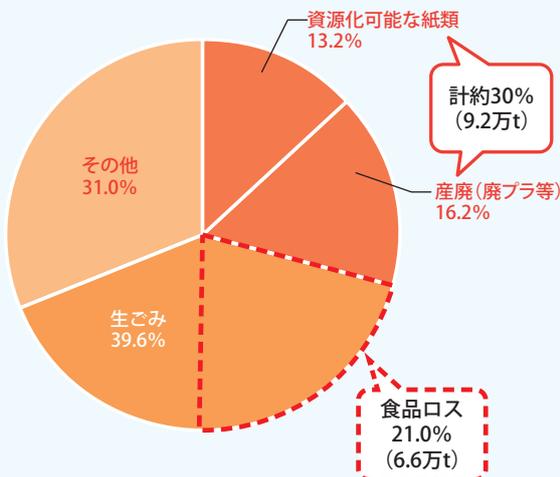
H30 家庭系ごみ

普通ごみの組成(H30総量:33.3万トン)



H30 事業系ごみ

小規模事業所(H30推定量:31.3万トン)



H30 事業系ごみ

大規模事業所(H30推定量:15.4万トン)

